

CSR 基本方針

コスモスモアのCSV経営	make Social Impact	
	コト 社会と会社の持続可能な関係創り	企業価値の向上 本業を活かした社会と共有できる価値の創造
コスモスモアのCSR経営	act Social Good	
	モノ 「社会課題解決型商品」の開発および販売	コスモスモア独自の経営ビジョン ・「デザイン+@」の付加価値を提供 ・人々の快適な生活の場の創造 ・安心・安全にこだわった資産の持続可能性の追求 ・優位性ある仕組みの創造と生活の場への環境価値の実現
企業理念	企業としての基本的な経営ビジョン	
	ヒト 「従業員の成長と動機付け」をメインテーマとした誠実・公正な企業活動	・強固なコーポレート・ガバナンス ・法令遵守とリスク管理の徹底 ・健全な財務基盤の構築 ・ユニバーサルデザイン(人権/働きやすい環境/障がい者雇用)
企業理念	私たちは満足を超える感動を目指します	
ステークホルダー	お客さま・株主さま・ビジネスパートナー・従業員・社会	

支援分野の枠組み

コスモスモアのCSR活動は、主軸事業と相関性のある社会環境問題を優先するメイン支援、および協働・情報交換などを行うシーズ支援によって構成されています。

MAIN (メイン支援)

CSV経営を指針とし、各団体と具体的な取り組みを実施します。継続的な支援を目指し、事業性についても追及してまいります。

東北創生支援

本業を通じてまちづくり・産業創出へ貢献
※特に福島注力

ふくしま連携復興センター

一般社団法人ふくしま連携復興センター
<http://f-renpuku.org/>

RCF Revalue as Coordinator for the Future
一般社団法人RCF
<http://rcf311.com/>

環境・国産材活用

CSV商品・サービスの開発・販売
※事業部販売状況の管理を実施

moreTrees

一般社団法人モア・トゥリーズ
<http://www.more-trees.org/>

スポーツ文化の浸透への貢献

CSRチャネルをベースに活動拡大
建設特需へ対応

HITOTOWA INC.

HITOTOWA INC.
<http://hitotowa.jp/>

SEEDS (シーズ支援)

CSR経営を目指し、各団体との関係性を構築しつつ、情報交換や共同研究を行います。

COP21パリ協定 エネルギー削減目標の実現

タイムマネジメント

1億総活躍社会の実現

働きやすい環境創り

MIRAIRO

株式会社ミライロ

港区での地域貢献

地元における
企業価値の創造

alterna

株式会社オルタナ

サスモア

sustainability
report of
cosmos more 2017

サスモア
10th anniversary

これまでとこれからの10年
未来へつなぐ モアバトン

特集01

サスラボ
経済価値創出フェーズへ

特集02

マギーズ東京をプロデュース



株式会社コスモスモア
CSR推進室 室長
高田祐一

サスモア2017 発行によせて

2016年度はコスモスモア中期経営計画(28-30期)の初年度であり、業績面においても好調に推移いたしました。お世話になりましたステークホルダーのみなさまにこの場をお借りして感謝申し上げます。

コスモスモアの企業理念は、「私たちは満足を超える感動を目指します」です。この理念実現にむけて、「社会と会社の持続可能な関係創り、社会課題解決型商品の開発販売、従業員の成長と動機付けをテーマとした誠実・公正な企業活動」というCSR方針を掲げています。

去年は、オフィス・住宅・介護施設と幅広い事業に携わるコスモスモアの強みを最大限活用し、英国で発足したマギーズセンター日本初の施設をデザイン設計の領域で支援・プロデュースする機会をいただきました。また、東京都足立区にある綾瀬駅にほど近い、古くから残る蔵の改修を行い、「地域とのつながりを生むコミュニティの場を創造した」として2016年度グッドデザイン賞を受賞することができました。今後も、本業を活かした社会と共有できる価値の創造を目指していきます。

2016年は経済に多大な影響を及ぼす出来事がいくつも起こりました。私たちは今、大きな技術革命のうねりの中におり、生活、仕事、人間関係が根本的に変わろうとしています。テクノロジーの進化が年々加速し、より大きな変化が起こっていく時代です。

競争力を維持するためには、いまある資源を最大限に有効利用できるように既存事業を少しずつ改革することが求められています。そして、サービス提供の方法に関して、CSR方針はビジネス価値に大きな影響を与えられると感じております。

2017年も中期経営計画(28-30期)の2年目も安心安全・地域貢献・環境活動・社会からの評価等、一歩ずつ着実な企業活動を目指します。コスモスモアらしく、社会に誇れる企業に成長してまいります。今期の成果がより社会課題を解決できるようコスモスモアを応援いただければ有難く存じます。



CSR活動

2016

6月4日	SMILE CUP(チャリティフットサル大会)参加
6月11日	チャリティゴルフ開催
6月17日	チャリティボーリング開催
7月2日-3日	高田スマイルフェス参加
7月24日	eco検定試験
8月26日-27日	安全衛生協力会 東北視察
8月31日	Google社主催「未来への学び」イベントにて講演
9月9日-10日	陸前高田スタディツアー 2016 実施
10月13日	港区ゴミ拾い 芝地区クリーンキャンペーン参加
11月19日	SMILE CUP(チャリティフットサル大会)参加
12月3日	第四回高田松原シーサイド KEIO カップ参加
12月18日	eco検定試験

2017

1月9日	CSR 10周年記念イベント
1月10日	R-LIVE 提供開始
1月13日	CSR福島合宿
2月16日	港区ゴミ拾い 芝地区クリーンキャンペーン参加

サスモア

2017

これまでとこれからの10年
コスモスモアのCSRの軌跡

メインピックアップ

04

サスモア 10 周年! これまでとこれからの 10 年

CSR 活動のこれまでとこれからの考えるワークショップを開催

06

社長メッセージ「緒方克吉、かく語りき」
コスモスモアのCSRの軌跡

08

特集01

「サスラボ」国産材を使用した商品開発プロジェクト
経済的価値の創出フェーズへ

10

特集02

マギーズ東京
マギーズ東京をプロデュース

12

東北復興支援

陸前高田スタディーツアー
安全衛生協力会 東北視察 / KEIO カップ
CSR 福島合宿

14

継続こそ力なり!

Google社主催「未来への学び」イベントで講演!
eco検定推進企業の仲間入り!
『芝地区クリーンキャンペーン～路上喫煙ゼロのまち!～』に参加!
高田スマイルフェスに参加。
空間音響商品「R-LIVE (REAL NATURE SOUND LIVE)」を提供開始!
チャリティイベント(フットサル、ゴルフ、ボーリング)

16

地域コミュニティの活性化

「蔵をひらく」蔵のコンバージョンによる、
地域コミュニティの活性化

18

デザインに込めた思い、編集後記
従業員フォトコレクション

20

CSR 基本方針
支援分野の枠組み



～サスモアを読みながら～

コスモスモアの GOOD 軸と MORE 軸

これまでのサスモア全9冊を読みながら、コスモスモアのこれまでのふりかえりと、これからの10年への期待を、GOOD軸(よく出来たと思う事)とMORE軸(もっと出来たんじゃないかと思う事)に分けてグルーピングし、発表するワークショップを行いました。

GOOD 軸

「eco検定」、「サスモア10周年」、「社内の風通しが良い」、「東北復興支援」、「港区ゴミ拾い」、「CSRに力を入れている」、「社内交流」、「ワークショップを行う環境」

MORE 軸

「社会課題解決型のCSRを社内にも浸透させたい」、「地域貢献」、「昔は出来ていたのに続かなかったこと」、「CSRからCSV(本業を通じた社会貢献)への転換」、「規模に左右されない災害時の支援」、「地元の人が地元の手によって使っている施設づくり」、「世代を問わず働きやすい環境づくり」、「チャリティーを増やしたい」、「コスモスモア発信で新しい価値を想像していくこと」、「建物ありきからプラスアルファとして運営的なことまでしっかりと着手していくこと」、「港区という地域に会社を根付かせる事」、「在宅支援、子育て支援、高齢化を迎えるときの介護退職など、働き方の改善」、「オフィスでの食生活」

ワークショップでは、GOOD軸よりMORE軸に多くのキーワードがあがりました。コスモスモアが会社としてこうありたい、高めたい、こう思われたい、という思いにあふれた書ききれない程のキーワードがあげられていました。

サスモア10周年！ CSR 活動のこれまでとこれからを 考えるワークショップを開催

本誌「サスモア」も10冊目となりました。そこで10周年を記念して、サスモアに関わる現役従業員、OB・OGが一同に集まり、10年間の振り返りと今後について考えるワークショップを行いました。

もっと従業員と家族のような会社にもっと家族を大切にもっと地球を大切に

コスモスモアは、住まいやオフィスの設計・デザイン・コンサルティングを行う企業です。建築に携わる者として、資源やエネルギーといった問題から目を背けることはできません。「一歩先を、つくる。一生涯に、こたえる。」を掲げ、「人・モノづくり・環境」をトータルで考えるために、環境問題に重点を置いたCSR活動に力を入れてきました。

今回のワークショップでは、サスモアの10年間の振り返り、これまでとこれからのコスモスモアとCSRについてのディスカッションを行いました。

サスモア創刊時の10年前とは変わり、家族ができ、親となり、環境が変化してくる中で、今の年齢・環境だから感じること、コスモスモアを外からみた視点での会社に対して思うことなどをディスカッションし、今後について考える大変有意義な時間となりました。



COLUMN

01

まちにわ ひばりが丘「ひばりテラス 118」

ワークショップの会場は、ひばりが丘のまちづくりの拠点として、エリアマネジメントを行なっている「ひばりテラス118」。コスモスモアOBの高村和明さん(現HITOTOWA INC.)が運営しています。エリアマネジメントとは、良好な環境や地域の価値の維持向上のために、住民と事業主など地域のステークスホルダーが手を取り合って主体的な取り組みをしていくことです。ひばりが丘は住宅街では日本初の取り組みとして注目されています。カフェ・菜園・コミュニティスペース・パーソナルスペース・カーシェアがあり、情報誌なども配置され、訪れた当日も多くの地域の人で賑わっていました。

02

現在の自分を表すワンワードと、これからの10年を表すワンワードを紙に書いて発表！

参加者それぞれにライフスタイルの変化があり、世の中に対する前向きで個性的なモアファミリーらしい言葉があふれていました。

現在の自分を表すワンワード

繋 変化 地域密着型 4 自由

酒肴人 NEW 継続 柔 むすぶ 親

これからの10年を表すワンワード

面 他社(者)貢献 鳥 社会性 家族と食 つなぐ 好機
企業活動から地域活動にフィールド転換 誇 耳 欲 優 続

緒方克吉、かく語りき

「デザイン+α」を活かしたCSR活動からCSV経営へ

10冊目のCSR広報誌「サスモア」

2006年に当社はCSR活動の開始を宣言、『私たちが出来ることから取り組む』を合言葉にスタートしました。CSR活動の記録として本誌「サスモア」を年一回発刊することを継続し、このたび10冊目を発行することが出来ました。CSR広報誌として当社の成長履歴となるよう今後も愛される冊子となることを念じております。ひとつの通過点として多くのステークホルダーのみなさまに厚くお礼申し上げます。

CSR精神が支えた10年間

10年前といえば、映画「不都合な真実」が日本でも公開され、地球温暖化への警鐘が鳴らされ世界的に大きな反響を生んだ時代でした。私自身もこの時期から学びが始まり、グループをあげてCSR経営について議論が始まりました。当社にとっての「社会的責任」とは何か。議論の結果、当社理念である「デザイン+α」を軸としたCSR経営を推進することを当社らしさと決めました。

一方で、米国発サブプライムローンがデフォルトとなり株価大暴落、翌年にはリーマンショックを引き起こす経済的不安定な世界となり日本の不動産建築業界もその影響を大きく受け、当社グループも危機対応に専念した時代でありました。厳しい時代だからこそ理念経営を持続する為にもCSR精神は大きな支えとなったと確信しています。

継続の復興支援『私たちが出来ること』

2011年3月の東日本大震災に遭遇することで、『私たちが出来ること』について一層考える機会となりました。災害復旧、復興に協力したいと思う中で、現地に赴くたびに津波の破壊力と原発被害の甚大さに衝撃を受け、私たちが出来ることの少なさに気づきました。そんな中での地道な支援活動を通じて、「デザイン+α」を活かせる機会に出会い、2つの東北復興プロジェクト（いわき市・陸前高田市）が稼動しました。2017年3月で震災より6年の歳月が流れましたが、未だ復興には課題も多い状況です。従業員と協力パートナー会社とともに復興状況に触れて感じる為の東北スタディーツアーも毎年開催されており、今後も復興・創生に関心をもち続け『私たちが出来ること』を探索し続けます。



CSR活動からCSV経営への進化を

当社は2017年4月より第29期をスタートしています。当社もCSR活動からCSV経営に進化させることを方針に掲げています。CSV (Creating Shared Value) に合致した当社の商品サービスが社会の課題解決を成し遂げることで収益を獲得し、持続的に事業活動を展開したいと考えています。当社の強みは、①多用途な仮設建築物の設計施工の実績、②働き方改革に応えるオフィス構築の設計施工の豊富な実績です。①においては2020東京五輪の仮設建物を建築することで貢献したいですし、②においても社会的課題である働き方改革にチャレンジする企業のサポート役として貢献したいと考えます。当社も同じ課題に直面していますので、従業員の働きがいを高めて、多様な働き方を実現するためにも、私たち自身が進化するときです。

当社は、未来創造に向けて「中期経営計画2018」を実行中ですが、社会性と収益性を高める為に新しいサービスへのチャレンジを進めています。海外設計事務所へのアウトソーシング、海外に提供できる当社サービスのニーズ検証、介護スタイルの多様性に応える施設の建設などがその一例です。

当社の仕事はすべてに「デザイン+α」が施されていると誇りを持っています。今後とも、いっそうの遊び心でCSV経営を楽しんでまいります。

コスモスモアのCSRの軌跡

SUSMORE Roadmap



わかれみちの年かも。

星川編集長が行く
中央防波堤埋立処分場/
挑戦！ゼロエミBBQ



芽生えの年です。

事業での取り組み
業界初！コスモスモア初！
カーボンオフセット商品



大きく育てる年に。

事業での取り組み
ファシリティ事業部
「eco-toオフィス」



しっかり根を張って

事業での取り組み
事業と持続可能性の共存!!
被災地にてボランティア



豊かな森をめざして

CSR推進室 発足！
陸前高田市にて、
復興支援



実りある時代へ

東北事業化へ向けて
のプロジェクトが
スタート！



これからのCSR

グッドデザイン賞受賞！
いわき駅前にコワーキング
スペースをオープン！



事業を通じた
社会課題解決へ

社会と会社を持続可能に
する商品開発プロジェク
ト「サスラボ」始動！



CSVプロジェクト
「サスラボ」

国産木材商品 販売開始！
インテリアとオフィスの
商品ラインナップが誕生！



「サスモア」
10th anniversary!

これまでとこれからの10年
コスモスモアCSRの軌跡

結実と継続のCSVプロジェクト
「MOCC」「WOOD BASE」新商品販売開始！

国産材を使用した商品開発プロジェクト「サスラボ」

これまで継続してきた寄付やボランティア活動に加え、本業を通じた社会貢献を行う CSV プロジェクトとして、国産材を活用した商品開発を推進する 2014 年度に発足した「サスラボ」。3 年目となる今年は商品化を進めていた「MOCC」シリーズ、「WOOD BASE」シリーズがともに販売開始。人工林の荒廃問題を解決するための国産材を活用した商品開発というコスモスモアの CSV プロジェクトは、いよいよ収穫の時、経済価値の創造という第 2 フェーズを迎えています。

MOCC

コスモスモアによる国産材オリジナルブランド

癒し

木には身も心も
リフレッシュさせる
効果があります

森林保護

日本の山林に眠った
ままのスギやヒノキを
使い、森林保護に
携われます

寄付

売上金額の一部を
森林保護の為
寄付しています



Bainster / 手すり

KAWAJUN とのコラボ商品。玄関に取り付ける方が多くいらっしゃいます。使っていくなかで手になじむ感じをお楽しみください。



Coat Hook / コートフック

KAWAJUN とのコラボ商品。廊下や洋室で活躍するコートフックです。国産材らしいナチュラルな風合い。



Name Plate / 表札

暖かみのある国産材を使った表札。天然木ならではのたったひとつだけのオリジナル表札です。

MOCC チーム

今年度は MOCC のコートフックが 4 本、手すり 1 本がお客さまの元に届きました。今回の販売で、一般社団法人モア・トゥリーズに 2500 円寄付し日本の森に貢献出来ました。販売プロモーションとしては手探りの年でしたが、今後はインテリアオプション以外にも販路を拡大して販売数・ラインナップの拡大を目標に進めていきます。引き続き、マンション購入者に向けてインテリアオプション会で販売すると共に、シニア施設などマンション以外の領域へもアプローチを開始してまいります。

WOOD
BASE

オフィスに木の温もりが感じられる 「心地よい場所」をつくる

「WOOD BASE」とは、直訳すると「木の基地（基点）」という意味。オフィスの中に「木の温もりが感じられる、心地よい場所をつくる」という思いが込められています。私たちのオフィスは、プラスチックや鉄、プリントされた化粧版など多くの人工物に囲まれています。そんなオフィスの中に国産材の木材がもつ「温かさ」「安らぎ」「豊かさ」を組み込み、より良いオフィス環境を目指そうと考えています。



PIT

オープンなオフィス空間にありながら大切な電話、人に聞かれない電話が可能なフォーンブースです。



KIBAKO

簡易ミーティングニーズに応え、リフレッシュに最適なスペースです。木の温もりが安らぎや豊かさを感じさせます。



WOOD BASE チーム

今年度は KIBAKO を自社オフィス内に設置しました。夏に出展したオフィスサービスエキスポブース内にも移設し、設置の容易さを実感できる経験となりました。来場されたお客さまには、簡易ミーティングスペースとしての機能も体感いただけました。今後は販売の拡大を目標に、オフィスビルに入居するクライアントだけでなくビルオーナーなどにも提案してまいります。

国産材を活用した商品開発



杉：多孔質で柔らかな材質は加工がしやすく肌触りも優しい。その分傷つき易いのですが格別の温かみがあります。



ヒノキ：針葉樹ながら比較的硬質で耐久性と対蟻性に優れ、特有の芳香が人に心地良く香ります。

本業を通じた社会的価値と経済的価値の追求

日本は、国土の約 7 割を森が占める世界有数の森林大国です。戦後の復興期に建築に必要なたくさんのスギ・ヒノキが植林されました。しかしながら、木材の輸入自由化により外国産の木材が安価に流通し、国産材の需要は大きく落ち込み、日本の森林は手つかずのまま放置され荒廃してきました。世界では生き物が住む場所を追いやる森林伐採は良くないというイメージがあるかもしれませんが、日本の場合は、木材を使った商品を作り、その需要を生むことは、荒れた森が適切に手入れされ、森に棲む生き物の多様性を育むことにつながります。コスモスモアはこの国産材を活用したサスラボの取り組みにより、日本の森林保全と森林に関わる産業の活性化に貢献したいと考えています。そこには本業を通じた取り組みとして、経済的価値を生み出し、事業利益をあげる事が求められています。商品を開発し、ブランド化して経済価値を高め、長期的な利益を生み出します。コスモスモアの CSV はこれからまさに第 2 フェーズに突入してまいります。

がんケアとコミュニティ支援を建築デザインから考える

マギーズ東京

特定非営利活動法人 maggie's tokyo は、医療従事者が中心となって活動している、がんになった人とその家族や友人など、がんに影響を受けるすべての人のためのコミュニティ支援施設です。住宅から介護施設まで幅広い事業に携わるコスモスモアの強みを最大限活用し、英国で発足したマギーズセンターの日本初の施設をプロデュースしました。

東京湾岸エリア活性化プロジェクト 「WANGAN ACTION」

湾岸エリアの魅力を高め、価値を高めるとともに、入居者のみなさまの暮らし心地をより良くするプロジェクト。食、スポーツ、アート、教育、音楽、福祉などの拠点を作り、人の賑わいやコミュニケーションを生む。そして、地域の住人が一体となったコミュニティを形成したい。そんな思いのもと当社はそのプロジェクトに、施設の建築担当として加わっています。マギーズ東京もその一端を担っています。



マギーズセンターとは

1996 年にがん治療中だったイギリスの造園家マギー・ジェンクスさんの想いからマギーズセンターは発足しました。センターを設立する際に「建築と景観が一体となった環境をつくり、患者の不安を軽減する」ことが必要不可欠であるとマギーさんは考えました。彼女の遺志を受け継ぎ、黒川紀章やザハ・ハディッド、レム・コールハースなど、世界的に著名な建築家のボランティアによって全てのマギーズセンターは設計されています。



デザインコンセプト

- ・自然光が入って明るい
- ・安全な(中)庭がある
- ・空間はオープンである
- ・執務場からすべて見える
- ・オープンキッチンがある
- ・セラピー用の個室がある
- ・暖炉がある、水槽がある
- ・一人になれるトイレがある

建築物ガイドラインとデザイン

建築に関して世界中のマギーズセンターの建物に共通ルールがあります。美術館のように魅力的であり、教会のようにじっくり考えることができ、病院のように安心でき、家のように帰ってきたいと思える場所。建築とランドスケープが一体的な環境をつくり、患者の不安を軽減するという考え方に基づいています。

『建築費をはじめとする運営にかかわる費用はすべて寄付金でまかなう』というコンセプトに従い、コストを抑えたプレハブ建築。床や壁、天井などを木材で覆うことで木造建築。創立者であるマギーさんのご遺志を取り入れた一体感のある庭と建物。コミュニケーションの場と一人になれる空間を限られた面積で両立させた距離感の演出、そして、コスモスモアの建築ノウハウを盛り込んだデザイン。

壁面塗装の前に、マギーズ賛同者による壁面への落書きを行いました。見えない部分、細部にまでたくさんの想いがつまっています。

プライベートスペースとオープンな空間という両極の役割を 80 m²ほどの建物内で両立させるというチャレンジ。監修を務めてくださった阿部勤先生とマギーズ東京のみなさんと共に創ることで、素敵な空間ができあがりました。近年の調査では、がんの罹患率が上昇している、という結果も発表されています。さらには有名人・著名人のみなさんががんの闘病を告白し、世の中の関心が高まっています。しかしながら治療中の心のサポートまでは得られにくいのが現状です。医療界でも心のケアが重要視されつつある昨今、このような場が今後いっそう必要になってくるのは明らかです。マギーズ東京のようながんになった人とその家族や友人など、がんに影響を受けるすべての人のためのコミュニティ支援施設をCSR 活動等を通じてこれからも支援させていただければと思います。



東日本大震災 復興支援レポート

2011年10月に岩手県陸前高田市でのボランティア活動をかきりにスタートした東日本大震災復興支援。今年も従業員スタディーツアー、協力会社との東北視察、CSR推進室の福島視察合宿を行いました。



コスモスモア従業員東北視察

『陸前高田スタディーツアー』を実施しました。

9月9日・10日の2日間に渡り、コスモスモア従業員向けの『陸前高田スタディーツアー』を実施。このスタディーツアーは、コスモスモアの従業員全員が被災地を訪れることを目的として、毎年各部署から30名程度が訪れており、今回は3度目になります。毎年少しずつ変化していく復興の状況を正確に把握し、自社のCSR/CSVに活かすためのものです。高田大隅つどの丘商店街、高田松原・震災遺構/慰霊堂復興センターや、仮設住宅、陸前高田スポーツグラウンドづくりプロジェクトなど、2日間で複数の場所を視察し、さらに農業体験も行いました。

つどの丘商店街のお店「わいわい」では、太田明成店長からお店の歴史と未来についてお話いただきました。一般社団法人まるごとりくぜんたかた協議会の伊藤雅人さんからは「地域コミュニティ」の重要性や、市民とボランティアの関係を良好にするために今も前向きに奮闘していることとお話いただきました。そして陸前高田市、戸羽太市長からは市の現状、そして「防災」をテーマにしながら、陸前高田をよみがえらせるだけでなく、さらに「ノーマライゼーション」に力を入れてオンリーワンの市を目指していくという今後の方向性についてお話を伺いました。また、及川武宏さんが営む農園では、陸前高田の人々の暮らしを、農業を通じて感じることができました。さらに、コスモスモアが設計サポートを行った「陸前高田スポーツグラウンドづくりプロジェクト」では、「5分でいいからボールを蹴ろう!」との声が上がリ、天然芝のグラウンドを駆け回りました。自然と全員が笑顔になれる、そんな素敵なグラウンドでした。

いまはすっかり瓦礫も撤去された陸前高田。何も無い地に一本だけ力強く立っている一本松。びったりな言葉が見つかりませんが、見ただけで勇気や明日もがんばろうという感情が沸き上がってきます。「復興は元に戻すこと、復興は以前よりもよくすること」と、もう被災地ではなく、人々が生きる街としてのあり方「高田らしさ」を模索し続ける姿勢に多くを学ぶことができました。当初は通常業務で多忙な中、2日間の視察スケジュールを確保することに苦労していたメンバーも、視察が終わったあとは「行って良かった。メディアでしか見たことのない状況を実感できた。」「復興に向かってがんばっている姿を見て、自身も勇気をもらった。」「さまざまな人の目線からたくさん話を聞けて良かった、これを広げていくことが一番大切。」「過去をいかすために、まずは情報と思いの共有が必要だと感じた。」「東北だから顕在化している問題も見ることができた」と、時間を割いて足を運んだからこそ得られたことが多かったようです。



パートナー企業と東北視察 『被災地 陸前高田を訪ねる旅』



復興支援をつづける輪をさらに広げていきたいと考え、昨年度初めて実施したパートナー企業との東北視察ツアー。今年も、8月26・27日の2日間に渡り、コスモスモア安全衛生協力会事務局主催で、陸前高田視察を行いました。パートナー企業19社の代表・役員を中心に28名が参加し、当社代表の緒方を始めとする役員・部次長9名を加えた合計37名での旅となりました。高田松原や陸前高田未来商店街、陸前高田スポーツグラウンドづくりプロジェクトなどを訪れ、被災地への理解を深め、今できることを模索するきっかけの旅となりました。

高田松原シーサイド KEIOカップ



12月3日に「第4回高田松原シーサイドKEIOカップ」が開催されました。2013年から始まった交流サッカー大会は、昨年までの3年間陸前高田市で行なわれていましたが、本年は初めて日吉(神奈川)に陸前高田から2チームを招いての開催となりました。天候にも恵まれ、絶好のサッカー日和となり、グラウンドではもちろん、慶應義塾大学日吉キャンパスの食堂で行なわれた懇親会でもお互いにエールを交換し合い、大いに盛り上がる大会となりました。スポーツを通じて心をひとつに出来たことで、風化しつつある復興への思いを改めるとても貴重な機会となりました。

CSR推進室 福島合宿へ



新3ヵ年の初年度に当たる2016年度は、福島県福島市・郡山市で一泊二日の視察を行いました。活動の柱である東北創生支援・2020年五輪支援でどう協力ができるのか現地へヒアリングを行い、それに向けて2017年度はどのように活動していくのか、CSR推進室メンバーで議論することが目的です。

1日目は、五輪のホストタウンである5都市(福島市・会津若松市・郡山市・いわき市・猪苗代市)を取りまとめる福島県庁、その一つである郡山市のスポーツ振興課を訪れ、五輪に向けソフト・ハードでどのような貢献ができるのかお話を聞かせていただきました。まだ競技会場が定まらない中、どんなスタンスで五輪に向けて活動すれば良いのか、判断に迷われている様子を感じられました。

その後、サスモア10周年の節目を迎えることもあり、2017年度の活動内容、今後、CSR活動からCSV経営へとどう進化させるのか、CSR推進室メンバーで議論を交わしました。本業をもってどんな社会課題を解決できるのか、2017年度はその点を意識し活動してまいります。

継続こそ力なり!

コスモスモアではより良い社会や環境のために、従業員一人ひとりが行動を積み重ねてきました。シーズ支援のための寄付、環境負荷低減など、全社的な活動や各事業部で新たに開始した取り組みをご紹介します。



Google社主催「未来への学び」イベントで講演!

復旧・復興支援に携わった企業が、プロジェクト開始の経緯や予算、人員配置、評価、現地とのネットワーク構築法など、活動を通して得られた各社の「ナレッジ」を公開しているGoogle社の「未来への学び」プロジェクト。コスモスモアの復旧・復興支援『陸前高田スポーツグラウンドづくりプロジェクト』『「夜明け市場」起業家支援プロジェクト』の2つの取り組みについて、サイトで公開されています。「ナレッジ」をオープンにすることで、将来、発生するかもしれない災害やその復興支援において、より迅速で、効果的な施策に繋がることが期待されています。

<https://miraimanabi.withgoogle.com/project/project-detail-24.html>



eco検定推進企業の仲間入り!

年2回の検定試験で、模試を実施するなどの合格に向けたサポートにより、従業員の保有率は80%以上を確保しております。内定者にも積極的に受験してもらうなど、従業員一人ひとりが環境への意識を高く持つことができました。昨年度は、検定HP内に「eco検定推進企業」としての仲間入りを果たしました。



『芝地区クリーンキャンペーン～路上喫煙ゼロのまち!～』に参加!

2016年10月13日と2017年2月16日『芝地区クリーンキャンペーン～路上喫煙ゼロのまち!～』にコスモスモア有志、CSRメンバー含む15名が参加してきました。港区主催の地域のごみ拾いをするこの企画では、朝8時半から地域の企業40社以上、総勢約340名が参加。田町駅・三田駅周辺芝1～5丁目、三田3丁目をモアのメンバーで担当してごみ拾いを行いました。朝からウォーキングをしながらのごみ拾いは気分も爽快だった、と参加者は爽やかな笑顔で語ってくれました。



高田スマイルフェス2016に参加しました。

コスモスモアでクラブハウスの設計を行った陸前高田スポーツグラウンドづくりプロジェクトで、友好協定を締結した『陸前高田市』と『川崎フロンターレ』共催の高田スマイルフェスが行われ、CSR推進室からは、2名が参加いたしました。両者の特色を生かしたアトラクションや物産販売、飲食コーナーの設置、文化・芸能を披露する特設ステージなどの他、フロンターレ選手参加によるサッカー教室ほか、メインイベントとして「川崎フロンターレvsベガルタ仙台」のスマイルドリームマッチや音楽ライブも開催され会場は大盛り上がりでした。



空間音響商品“R-LIVE (REAL NATURE SOUND LIVE)”を提供開始!

より快適な空間デザインの一環として、『自然の音を日常に』をコンセプトとし、森や川、波など自然界の音をオフィスや住宅で高品質に再現する空間音響商品、“R-LIVE (REAL NATURE SOUND LIVE)”の提供および視聴の受付を、2017年1月10日から開始しました。従来の空間デザイン、色彩デザインに加え、今後は聴覚の要素も加えた魅力ある空間のご提案が可能となります。コスモスモアは、これから法人・個人のお客さまに「満足を超える感動」を、デザインを通じて提供し続けてまいります。

従業員が参加する! 続ける!

チャリティイベント

今年度も継続的な支援の輪を拡げるため、従業員やパートナー企業と恒例のチャリティスポーツイベントを実施。熊本震災復興支援のほか、コスモスモアが現在支援中のプロジェクトへ寄付いたしました。

01 SMILE CUP (チャリティフットサル大会)



寄付先 陸前高田
スポーツグラウンドづくりプロジェクト 寄付金額 ￥81,971

住宅に関わる企業や団体が集まるチャリティフットサルイベント「SMILE CUP」。今年度は6月4日と11月19日に開催されました。毎回チーム数が増え、子どもや女性も参加する中、同じユニフォームでそろえた会社同士の熱戦が繰り広げられ、大いに盛り上がる大会となりました。コスモスモアは優勝こそ逃しましたが、選手宣誓やトロフィーの授与などでも大活躍。参加費の一部が「陸前高田スポーツグラウンドづくりプロジェクト」に寄付される本イベントでは、防災ワークショップ「ディフェンス・アクション」も実施。フットサルを楽しみながら、東北の復興や防災・減災について考える機会となりました。

02 チャリティゴルフ



寄付先 特定非営利活動法人
ビッグイシュー基金 寄付金額 ￥79,831

6月11日、大阪府の高槻カントリー倶楽部にて、当社とパートナー企業で組織する「コスモスモア関西安全衛生協力会」のチャリティゴルフコンペを開催しました。当日は39名が参加。晴天に恵まれた爽やかなコースでプレイを楽しみました。参加費の残額は、「3つのシーズ支援」の1つ、「特定非営利活動法人ビッグイシュー基金」が取り組む、ホームレスの人々への自立支援活動のために寄付いたしました。

03 チャリティボーリング



寄付先 熊本地震被害支援(日本赤十字社)
more Trees 寄付金額 ￥65,000

6月17日に参加費の一部を寄付とした「チャリティボーリング」を開催。コスモスモア従業員65名とパートナー企業のスタッフ65名の計130名、ボーリング場を貸しきるほど多くの方にご参加いただきました。チーム別対抗戦では、ハイスコアをたたき出すたびにハイタッチで喜び合い、大盛り上がりとなりました。集まった寄付金「65,000円」は、熊本地震被害支援(日本赤十字社)とmore treesへ寄付いたしました。

2016年度の寄付金合計額 ￥226,802

蔵のコンバージョンによる、
地域コミュニティの活性化



蔵をひらく

コスモスモアがデザインした『綾瀬〇邸 蔵リノベーションプロジェクト』が、
公益財団法人日本デザイン振興会主催の「2016 年度グッドデザイン賞」を受賞いたしました。

快 人々が集うための快適な空間に

東京都足立区にある綾瀬駅にほど近い、古くから残る蔵の改修を行いました。明治時代に建てられ当初は質屋として利用されていたものの、のちには物置となり長い間暗く閉ざされた状態でした。オーナーさまからの蔵の改装の要望を受け、書斎としての機能と、地域とのつながりを生むコミュニティの場としての機能を持たせた、ひらかれた蔵をコスモスモアは提案いたしました。

蔵の特徴を活かした 空気調和

蔵の特徴でもあるしっくい壁や粘土瓦による温度調節機能を利用し、送風設備を設置することで空気の流れを確保。過剰な空調設備を入れずに快適な空間づくりを行いました。

間接照明での空間の演出

小屋裏を美しく照らす照明を梁上に配置。下から見えないさりげない工夫をこらしました。

高さ方向への広がり

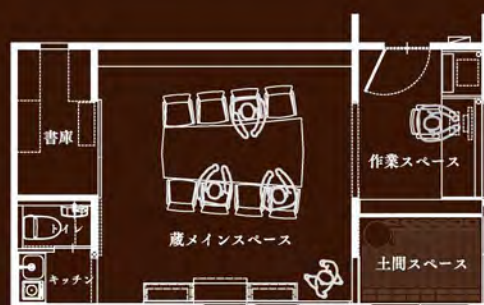
天井板を撤去し、閉鎖的だった空間が高く気持ちの良い吹き抜けに

水平方向への広がり

庭園への眺望を確保

直接照明による 明るさの確保

テーブル上にすっきりとした美しいペンダントライトを設置し、手元の明るさと空間の演出を兼ねました。



エントランス

高さと水平方向 への広がり

光の効果

温熱環境

繋 繋がるコミュニティ

お祭りや青年団など地域の行事・活動の場として

少人数で情報交換する場として

従来の公民館のような施設と違う距離感の近さ生み出す親密さ、ひらかれた蔵の空間は住民のコモンスペースとして、地域の中で新たな役割を担うことを期待されています。



継 歴史や技を受け継ぐ

活かす



魅せる



甦らせる



時の記憶の宿るものを残す

「活かす」「魅せる」「甦らせる」をキーワードとし、壊して新しくするだけではなく歴史があるものを守りつつ、時代に合わせた形に整えました。建物と歴史を次の世代へと受け継ぎ、その豊かさを享受できるような地域のコミュニティの拠点となりました。

職人の貴重な技を継承する

改修にあたって使用した素材は全てこの場所にあったものを加工・再利用しており、その再生にあたっては地元の職人技を活かしています。

MORE BATON

これからもずっと。
今、できることを、一つひとつ。
未来へ つないで とどけたい。

コスモスモアの“CSRアクション”をカタチにした
「MORE BATON (モアバトン)」

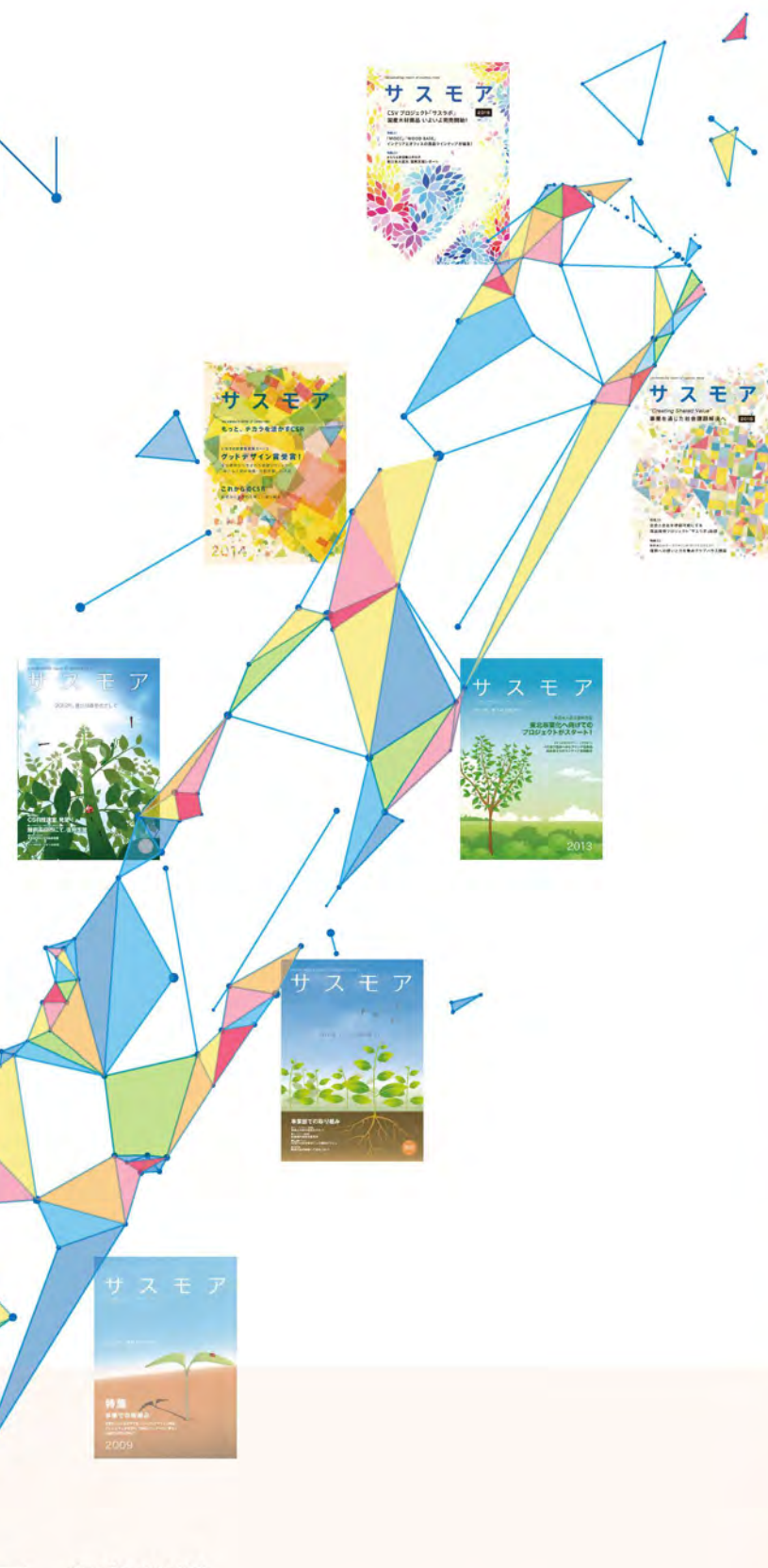
バトンをつなぎ、とどけるように、
前向きに社会課題に取り組んでいきたい。

人と人のつながりや思いを、
チームワークと技術や経験を、
世の中に役立つアクションを、
一つひとつ。またひとつ。

受け継ぎ、繋げ、育んで、
未来を切り拓いていきたい。

これからもコスモスモアの挑戦は
尽きることなく続いていきます。

そんな思いをデザインに込めて、
サスモア2017をみなさまに
お届けします。



編集後記

本誌「サスモア」も10冊目となりました。これまでの10年を振り返りつつ、これからの10年を見据え、沢山のみなさまとバトンをつなぎ、今後も本業を活かし、社会と共有できる価値の創造を目指していければと思います。(小川将克)

発行人：緒方克吉

編集人：安藤晶子、大野竜太、小川将克、
高田祐一、原田真友子、松井伸城

